

## 三菱浅形レンジフードファン [台所用]

高静圧・丸排気タイプ

形名 V-36K<sub>6</sub>・375K<sub>6</sub>・39K<sub>6</sub>  
V-37KCP<sub>5</sub>(-BK)(右排気用)・37KCP<sub>5</sub>-L(-BK)(左排気用)

高静圧・丸排気タイプ(換気ユニットレンジ用フードファン) 優良住宅部品「BL」認定  
(BL規格排気型Ⅲ型)  
形名 V-36K<sub>5</sub>-BL(-BK)(右排気用)・36K<sub>5</sub>-BL-L(-BK)(左排気用)

標準・角排気タイプ

形名 V-316K<sub>6</sub>・316KY<sub>6</sub>・316KR<sub>6</sub>・316KP<sub>6</sub>・317K<sub>6</sub>・316KSW<sub>5</sub>

2001875H12801

## 据付説明書

## 販売店・工事店様用

据付けを始める前に、必ずこの据付説明書をお読みください。

据付けは販売店様、または専門の工事店様が実施してください。

■本製品は、住宅の台所用です。業務用途では使用できません。

■本製品の据付けにあたっては、地域により防災上の制限(内装材の制限、補強板・枠の材質の制限、可燃物との距離の制限、ジャバラの使用など)がありますので、詳細は行政官庁または、消防署にお問い合わせください。

■丸排気タイプの接続ダクトはφ150の鋼板管・スパイラルダクトのいずれかをご用意ください。

■システム部材は三菱換気送風機総合カタログにより別途ご用意ください。

■別冊の「取扱説明書」はお客様用です。必ずお渡しください。

優良住宅部品(BL)について

●当社の定める据付け要領を逸脱しない据付けに瑕疵が生じ、据付け者が無償修理や損害賠償を行った場合、BLマークの証紙の貼付(又は刻印等)がされている住宅部品については、一般財団法人ベターリビングのBL保険制度により、保険金が支給されます。

●BL保険制度については、一般財団法人ベターリビングのホームページ(<http://www.cblr.or.jp>)をご覧ください。

## 安全のために必ず守ること

### 警告

誤った取り扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの

	内釜式風呂を設置した住宅には据付けない排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒の原因。
	直排水のかかる場所や温湿度の多い場所には据付けない排気および故障の原因。
	改造や必要以上の分解はしない火災・感電・けがの原因。
	ランプを点検する際は必ず电源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る通電状態では感電の原因。
	包装用ポリ袋などは幼児の手の届かない所に廃棄または保管する幼児が頭からかぶると、窒息の原因。

### 注意

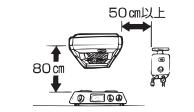
誤った取り扱いをしたときに軽傷または家庭・家財などの物的損害に結びつくもの

	浴室など温湿度の多い場所では絶対に使わない感電・故障の原因。
	指定以外のランプを使用しないランプ周辺が高温になり、やけどの原因。
	運転中は危険ですから、羽根の中に指や物を入れないけがの原因。
	本体の据付けは十分強度のあるところを選んで確実に行う落さによりけがの原因。
	据付けの際は袋を着用する通電しないけがの原因。

## 据付け前のお願い

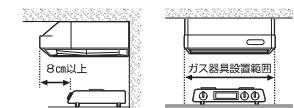
### 下図の寸法を守る

(本体の下端からガスレンジまでは80cm以上必要です)



(モーター故障や排気ガスによる塗装面のサビ発生の原因となります)

- レンジフードファンはガス器具よりも幅の広いものを選択してください。
- 本体の前縁からガス器具の前縁まで80cm以上あけてください。
- ガス器具は設置範囲内に設置してください。
- ガス器具からレンジフードファンまでの距離は80cmにできるだけ近い距離で設置してください。



(製品の捕集性能が得られないことがあります)

直接コンクリートなど、傷つけやすいもののうえには置かない



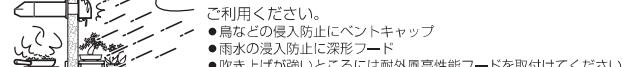
本体は水平に取付ける(前後・左右)(羽根当たりや異音の原因になります)

### ダクト工事

- 排気ダクトは雨水の浸入を防ぐため屋外に向けて1/100以上の下りこう配をつける。先端に屋外フード(システム部材)などを取付けることをおすすめします。
- また、屋外フードはメンテナンス(点検・清掃)ができる位置に取付けてください。
- 次のようなダクト工事はしない。(風量低下や異常発生の原因になります)



- システム部材の選定には圧損の少ないものを使用してください。(製品性能が得られないことがあります)



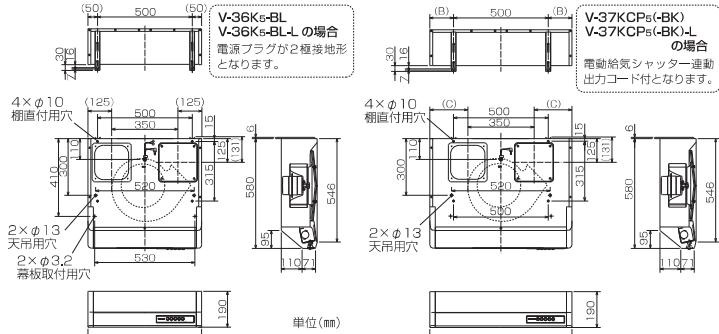
- 室内に専用の給気口を設けてください。(扉の開閉が困難になったり、製品性能が得られないことがあります)

- 風の影響を受けやすいため、空調機や給気口からの風が直接あたらないようにしてください。(油煙等の漏れの原因となります)

## 外形寸法図

■V-36K<sub>6</sub>・36K<sub>5</sub>-BL(-BK)・36K<sub>5</sub>-BL-L(-BK)

■V-375K<sub>6</sub>・39K<sub>6</sub>  
V-37KCP<sub>5</sub>(-BK)・37KCP<sub>5</sub>-L(-BK)



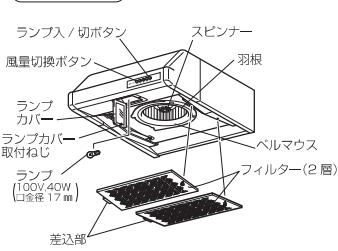
\*V-36K<sub>6</sub>-BL(-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>(-BK)は右側の排気口のみ開口(右排気用)

V-36K<sub>5</sub>-BL-L(-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>-L(-BK)は左側の排気口のみ開口(左排気用)となります。

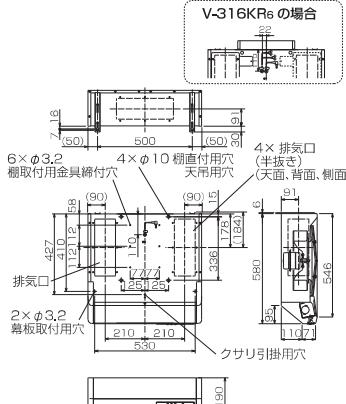
### 付属品

木ねじ(5.1×25) 2本	タッピングねじ(4×8) 8本	木ねじ(4.1×20) 横直付用
横直付用 ワッシャー 4個 (外径φ16・内径φ4.5)	取付金具 2個	ダクト接続用(シャッター付) 1個
ゴムワッシャー 4個 吊り具用 (V-36K <sub>6</sub> -BL(-BK) V-36K <sub>5</sub> -BL-L(-BK) V-37KCP <sub>5</sub> (-BK) V-37KCP <sub>5</sub> -L(-BK)のみ)	未用ワッシャー 4個 (外径φ16・内径φ1.0) (V-36K <sub>6</sub> -BL(-BK) V-36K <sub>5</sub> -BL-L(-BK) V-37KCP <sub>5</sub> (-BK) V-37KCP <sub>5</sub> -L(-BK)のみ)	

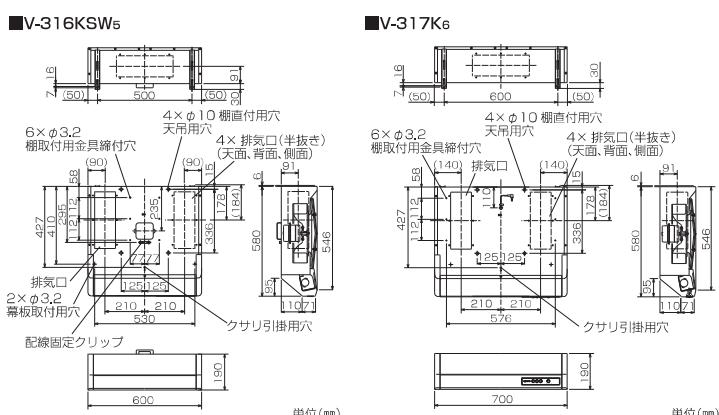
### 各部のなまえ



■V-316K<sub>6</sub>・316KR<sub>6</sub>・316KP<sub>6</sub>



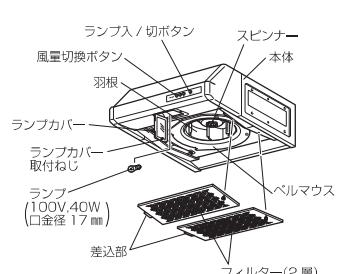
■V-316K<sub>6</sub>



### 付属品

タッピングねじ 16本 (4×8)	木ねじ(4.1×20) 横直付用
木ねじ(5.1×25) 2本	横直付用ワッシャー 4個
すき間防止用クッション 1本	取付金具 2個
取付板 1枚	ダクト接続口 1個 (シャッター付)

### 各部のなまえ



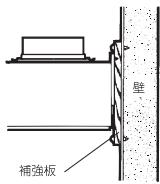
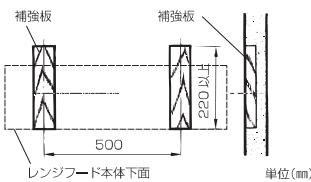
\*図はV-316K6を示します。

# 据付方法

V-36K<sub>6</sub> V-375K<sub>6</sub> V-39K<sub>6</sub>  
V-37KCP<sub>5</sub> (-BK) V-37KCP<sub>5</sub>-L (-BK)  
V-36K<sub>5</sub>-BL (-BK) V-36K<sub>5</sub>-BL-L (-BK)

## △警告

壁据付けした上で吊りボルトを使用するか、壁据付けした上で天井または吊り戸棚に補強材を固定して本体を据付ける。(落下のおそれがあります)



## 1 据付け前の準備

### 1. 壁据付けの準備

#### 板張りの場合

- 板厚20mm以上は直接壁に据付ける。  
20mm以下は20mm以上になるよう補強板を取付ける。

#### コンクリート、タイル、土壁の場合

- 新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込む。
- 既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付ける。

#### メモ

- 既築の住宅に補強板を固定して据付ける場合、補強板が壁面より突出することになりますのでレンジフードファンは壁に密着しません。

### 2. 天井据付けの準備

#### 吊りボルトを使用する場合

- 据付にM8mmの吊りボルト2本・ナット4個・天吊用ワッシャー4枚・ゴムワッシャー4枚が必要になります。お客様にて市販品を別途手配してください。  
(V-36K<sub>5</sub>-BL (-BK)・V-36K<sub>5</sub>-BL-L (-BK)・V-37KCP<sub>5</sub> (-BK)・V-37KCP<sub>5</sub>-L (-BK)は天吊用ワッシャー・ゴムワッシャー付属)
- 吊りボルト2本を天吊用穴の位置にあわせてあらかじめ天井に埋め込む。  
※吊りボルトのビッチは外形寸法図を参照してください。
- 吊りボルトは、本体を据付けたときに本体内部に突出した部分が50mm以上になるようにしてください。

#### 天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

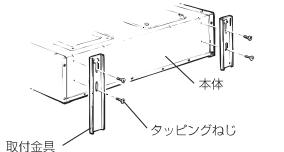
- 厚さ30mm以上の補強板を天井または吊り戸棚に据付ける。
- ダクト用の穴を開ける

#### お願い

- 新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもたせてください。

## 2 取付金具の取付け

- 付属の取付金具2個を付属のタッピングねじ(4×8)各2本で本体に取付ける。



## 3 ダクト接続口の取付け

- 付属のタッピングねじ(4×8)4本で付属のダクト接続口を使用する排気口に取付ける。

- 排気口を変更したい場合は、ねじで止めてある取付板のねじをはずして付換える。
- V-36K<sub>5</sub>-BL (-BK)、V-37KCP<sub>5</sub> (-BK)は右排気専用、V-36K<sub>5</sub>-BL-L (-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>-L (-BK)は左排気専用となります。

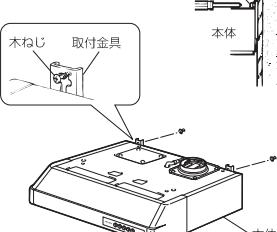
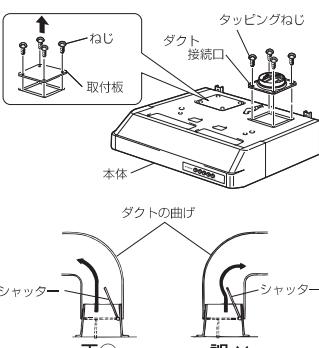
#### お願い

- ダクトを差し込んだとき、シャッターの開き方向とダクトの曲がりが図のよう取付けてください。  
シャッター開き方向と逆にダクトの曲がりがあると、風量低下や異常音発生の原因となります。

## 4 本体の据付け

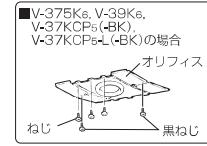
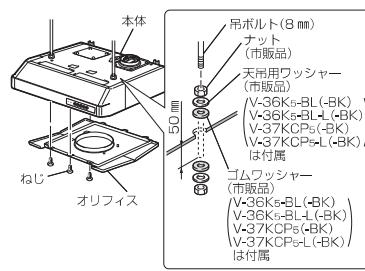
### 1. 壁据付け

- 据付位置に、付属の木ねじ(5.1×25)を図のように8mm程度、締め付けを残して締め付ける。
- 木ねじに取付金具を引掛け、支えながら締め付ける。

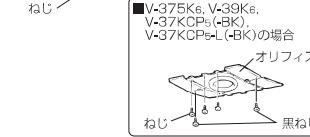
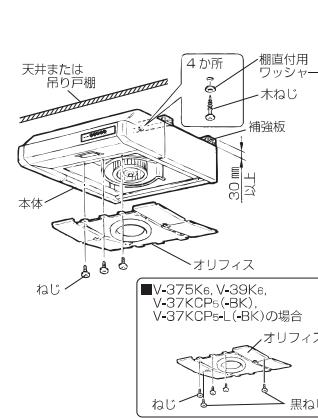


## 2. 天井据付け

### 吊りボルトを使用する場合

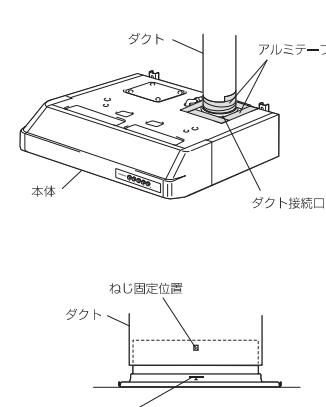


- オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。



### 天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

- フィルターをはずし、オリフィスのねじ3本(V-375K<sub>6</sub>、V-39K<sub>6</sub>、V-37KCP<sub>5</sub>(-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>-L(-BK))はさらに黒ねじ2本)をはずし、本体からオリフィスをはずす。
- 天井などに、付属の木ねじ(4.1×20)と付属の糊直付用ワッシャー各4個で本体を据付ける。
- オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。



## 5 ダクト工事

ダクト接続口をしっかり固定した後、ダクトを差し込み、市販のアルミテープで風漏れのないようテープィングする。

- ダクト接続口と本体の接触面(ダクト接続口周辺)もアルミテープでテープィングしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。
- シャッターがダクトに接触しないように施工してください。異音発生や製品性能が得られないことがあります。
- ダクトをねじで固定する場合は、ダクト接続口のマーカーの真上20mmの位置に長さ10mm以下のねじで固定してください。それ以外の位置でねじ固定するとはシャッターが正常に動作しない場合があります。

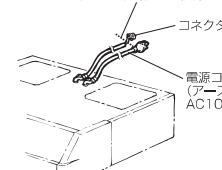
## ■V-36K<sub>6</sub>、V-375K<sub>6</sub>、V-39K<sub>6</sub>

運動出力コード  
電動給気チャンバー・幕板セット(システム部材)と接続する。または先端を切断して電動給気シャッター(システム部材)などに接続する。(V-36K<sub>6</sub>のみ)



## ■V-36K<sub>5</sub>-BL(-BK)、V-36K<sub>5</sub>-BL-L(-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>(-BK)、V-37KCP<sub>5</sub>-L(-BK)

運動出力コード  
電動給気チャンバー・幕板セット(システム部材)と接続する。または先端を切断して電動給気シャッター(システム部材)などに接続する。



## 6 電気工事

機種により下記の要領で結線を行い、電源プラグをコンセントに差し込む。  
※アース端子を使用して必ずD種接地工事を実施してください。

(本体天面)V-36K<sub>6</sub>・V-375K<sub>6</sub>・V-39K<sub>6</sub>)

### 結線要領

- 電動給気シャッター・中間取付形電動シャッター(システム部材)を使用する場合  
運動出力コードの先端を切断して、電動給気シャッター・中間取付形電動シャッターに接続する。
- 電動給気チャンバー・幕板セット(システム部材)を使用する場合  
運動出力コードのコネクタと電動給気チャンバー・幕板セットのコネクタを接続する。  
※詳細は電動給気チャンバー・幕板セットの接続の掲付説明書による。

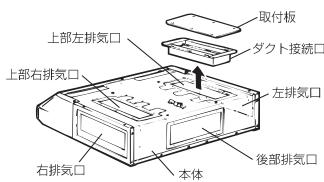
# 据付方法

V-316K6 V-316KY6 V-316KSw5 V-317K6

この製品は排気方向5方向（V-316KY6は2方向）のうち1つを選んで直接壁に据付けることができます。システム部材を使用すれば丸ダクト配管にて排気ができます。

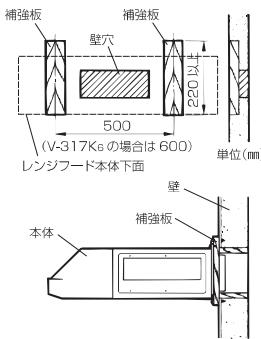


壁据付けをした上で、吊りボルトやクサリで本体を吊るか吊り戸棚に補強材を固定して本体を据付けるか、またはシステム部材の取付金具を使用して本体を据付ける。（落下のおそれがあります）



## 1 排気方向の選択

- ダクト接続口と取付板は、製品出荷時、上部左排気口内側にアーブ止めされているので、取りはずす。
- この製品は、排気方向が上部（左・右）、後部、右側、左側の5か所（V-316KY6は上部（後）と後部の2か所）に排気方向が選択できるようになっていますので、建物の構造などに合わせて排気方向を選択する。
- 取付金具を使用する場合、上部への排気はできません。



## 2 据付け前の準備

### 1. 壁据付けの準備（図は後部排気の場合です）

#### 板張りの場合

- 板厚20mm以上の場合は直接壁に据付ける。  
20mm以下の場合は20mm以上になるよう補強板を取付ける。

#### コンクリート、タイル、土壁の場合

- 新築の場合はあらかじめ補強板を壁に埋め込む。
- 既築の場合はコンクリートビスなどを利用するか補強板を固定して据付ける。

#### メモ

- 既築の住宅に補強板を固定して据付ける場合、補強板が壁面より突出することになりますのでレンジフードファンは壁に密着しません。

## 2. 天井据付けの準備

### 吊りボルトを使用する場合

- 据付けにM8mmの吊りボルト2本・ナット4個・天吊用ワッシャー4枚・ゴムワッシャー4枚が必要になります。お客様にて市販品を別途手配してください。
- 使用する天吊用穴を選択する
- 吊りボルト2本を天吊用穴の位置にあわせてあらかじめ天井に埋め込む。  
※吊りボルトのピッチは外形寸法図を参照してください。
- 吊りボルトは、本体を据付けたときに本体内に飛び出す部分が50mm以内になるようにしてください。

### クサリを使用する場合

- クサリ・フック・クサリと本体をつなぐ針金が必要となります。  
お客様にて市販品を別途手配してください。
- クサリ・フック・針金は、本体の荷重に十分耐えられるものを使用してください。

### 天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

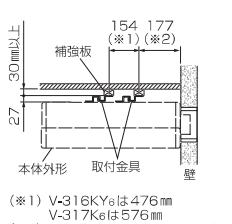
#### 取付金具（システム部材）を使用する場合

- 厚さ30mm以上の補強板を天井または吊り戸棚に取付ける。
- ダクト用の穴を開ける。（上部排気の場合）

#### お願い

- 新築・既築により準備が異なりますがいずれの場合も十分強度をもたせてください。

### 取付金具を使用 右・左排気の場合（図は右排気の場合）

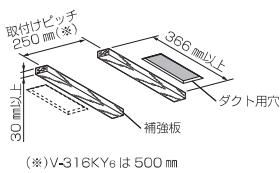


## 3 木枠または不燃枠（システム部材）の取付け

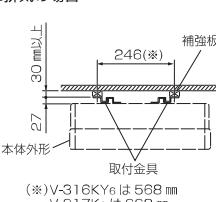
枠を準備し、壁に穴をあけ、枠を取付ける。

- 枠寸法は、左図の枠寸法図を参照ください。  
(板厚は、18mm程度を自由にしてください)
- 付属の木ねじ（5.1×25）を左図のように8mm程度、締め付けを残して締め付ける。

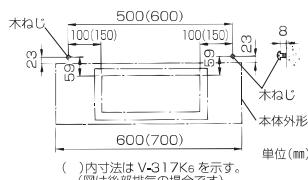
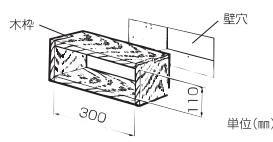
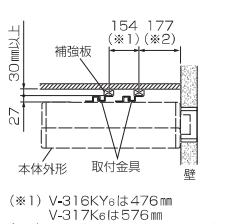
### 直接取付ける場合



### 取付金具を使用 後部排気の場合



### 取付金具を使用 右・左排気の場合（図は右排気の場合）



### 左・右排気の場合

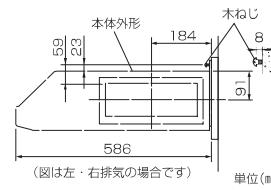
●木ねじと本体および枠の位置関係は左図のように行ってください。

#### お願い

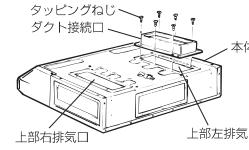
- 壁穴の大きさは、枠が取付けられる大きさにしてください。  
壁穴のあけかたと枠の取付けかたは、壁の材質などにより異なりますので、工事業者とご相談のうえ行ってください。

（丸形排気アタッチメントを使用の場合は、枠の取付（枠）がけが不要です。）

- 地域により木枠や不燃枠の材質、可燃物との距離について防災上の制限があります。詳細は行政官庁または消防署にお問い合わせください。



単位（mm）



### 上部左排気の場合

取りはずしたダクト接続口を、上部左排気口に付属のタッピングねじ（4×8）6本で取付ける。

#### お願い

- 上部排気の場合、シャッターの開き方向は図のように取付ける。

### 上部右排気、左・右排気、後部排気の場合

- （1）本体外側からハンマーとマイナスドライバーで排気口（半抜き）のつなぎ部分を打ち抜く。

#### お願い

- 排気口を打ち抜くときに、本体に傷を付けないようにしてください。



### 上部中央排気の場合



- （2）取りはずしたダクト接続口を使用する排気口に付属のタッピングねじ（4×8）6本で取付ける。

#### お願い

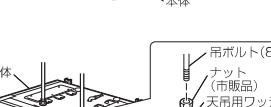
- 左、右排気、後部排気の場合には、ダクト接続口を逆に取付けるとシャッターが開いたままになりますので注意ください。

- （3）取りはずした取付板を、上部左排気口に付属のタッピングねじ（4×8）6本で取付ける。

- （4）ダクト接続口に付属のすき間防止用クッションを巻き付ける。  
巻き付けないと風漏れの原因となります。

## 5 取付金具の取付け

- 付属の取付金具2個を付属のタッピングねじ（4×8）各2本で本体に取付ける。



## 6 本体の据付け

### 1. 壁据付け

- 据付け位置に、付属の木ねじ（5.1×25）を図のように8mm程度締め付けを残して締め付ける。
- 本体ダクト接続口を木枠に差し込み、木ねじに取付金具を引掛け、支えながら木ねじを締め付ける。

### 2. 天井据付け

#### 吊りボルトを使用する場合

- （1）フィルターをはずし、オリフィスのねじ3本（V-317K6はさらに黒ねじ2本）をはずし、本体からオリフィスをはずす。

- （2）羽根を押さえながらスピンナーを右へ回しゆるめ、羽根をはずす。

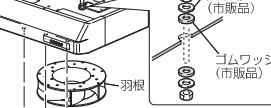
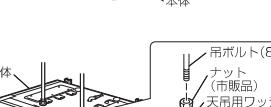
- （3）本体の吊りボルト用穴に吊りボルトを通して、ゴムワッシャー・天吊用ワッシャーで本体をはさみナットで固定する。

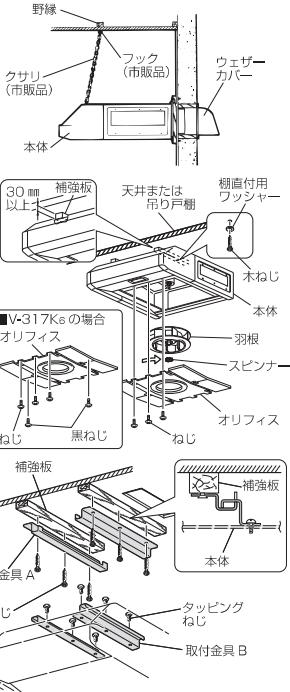
#### お願い

- 本体は、水平に据付けてください。（前後左右）  
本体が傾いていると羽根当たりや、異音の原因になります。

- 羽根の取扱いには十分注意してください。変形する異常音の原因となります。

- （4）羽根・オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。





#### クサリを使用する場合

- (1) フックを天井の野線に取付け、クサリを引っ掛ける。
- (2) クサリと本体のクサリ引掛穴に針金を通してしっかりと固定する。

#### 天井または吊り戸棚に直接据付ける場合

- (1) フィルターをはずし、オリフィスのねじ3本(V-317K<sub>e</sub>)はさらに黒色のねじ2本)をはずし、本体からオリフィスをはずす。
- (2) 羽根を押さえながらスピナーナーを右へ回しゆるめ、羽根をはずす。
- (3) 天井などに付属の木ねじ(4.1×20)と付属の棚直付用ワッシャーで本体を取付ける。
- (4) 羽根・オリフィス・フィルターの取付けは、取りはずしと逆の順序で行う。

#### お願い

- 本体は、水平に据付けてください。(前後左右)本体が傾いていると羽根当たりや、異音の原因になります。
- 羽根の取扱いには十分注意してください。変形すると異常音の原因となります。

#### 取付金具(システム部材)を使用する場合

- (1) 補強した天井などに、部材に付属の木ねじ(5.1×25)で取付金具Aを取付ける。
- 部材に付属のタッピングねじ(4×12)で、取付金具Bを本体に取付ける。

#### お願い

- 排気方向により取付金具の向きが異なります。取付金具の据付説明書や「据付前の準備」のイラストで方向を確認してください。
- (2) ダクト接続口を壁穴に差し込みながら、取付金具Bを取付金具Aに引掛けて本体を据付ける。

## 7 ダクト工事

ダクト接続口をしっかりと固定した後、ダクトを差し込み、市販のアルミテープで風漏れのないようテープingする。

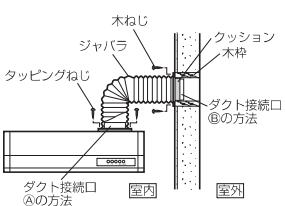
#### お願い

- ダクト接続口と本体の接触面(ダクト接続口周辺)もアルミテープでテープingしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。
- シャッターがダクトに接触しないように施工してください。異音や製品性能が得られないことがあります。

#### その他(システム部材を使用)の取付けかた

##### ジャバラを使用する場合の据付方法

- ジャバラの使用については、地域により異なった規制を受ける場合がありますのであらかじめ所轄の官公庁(特に消防署)にご相談ください。
- 後部排気時はジャバラは使用できません。
- ジャバラを取付ける場合の作業には、⑥ダクト接続口を本体に固定する方法と、⑦壁面にダクト接続口を固定する方法があります。



##### ⑥ダクト接続口を本体に固定する方法

- ジャバラを木枠に部材付属の木ねじを用いて締め付け、本体側は、本体のダクト接続口と共に本体付属のタッピングねじで固定する。(本体と壁面が300mm以下の場合は、⑧の方法にしてください)

#### お願い

- シャッターがジャバラに当たらないことを確認してください。

##### ⑦ダクト接続口を壁に固定する方法

- ダクト接続口にすき間防止用クッションを巻き付け、壁面の木枠にあてがい、部材付属の木ねじでジャバラと共に締める。本体側はジャバラを本体付属のタッピングねじで直接固定する。

#### お願い

- ダクト接続口と本体の接触面(ダクト接続口周辺)もアルミテープでテープingしてください。
- ダクト接続口に無理な力を加えないでください。変形し風漏れやシャッター動作不具合の原因になります。

システム部材の丸排気アタッチメントをシャッター枠に取付ければ丸ダクト配管の施工が可能になります。  
※詳細はシステム部材の据付説明書を参照してください。

## 8 電気工事

### V-316K<sub>e</sub>・316KY<sub>e</sub>・316KR<sub>e</sub>

### V-316KP<sub>e</sub>・317K<sub>e</sub>の場合

機種により下記の要領で結線を行い、電源プラグをコンセントに差し込む。

※アース端子を使用して必ずD種接地工事を実施してください。(本体天面)

#### 結線要領 (V-317K<sub>e</sub>のみ)

- (1) 煙逆流防止ダンパーなどを使用する場合、運動出力コードで確認ランプ用コードの先端を絶縁端子ごとに切断する。(端子は絶縁のためのものですので配線する場合は必要ありません)
- (2) 各コードを煙逆流防止ダンパーなどと結線する。

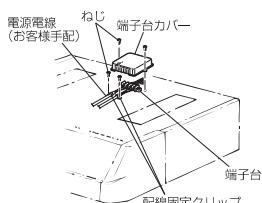
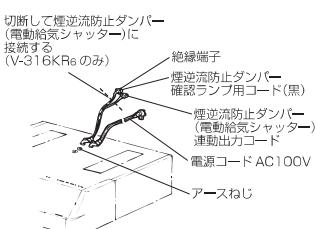
#### お願い

- 電動給気シャッターと接続する場合は、確認ランプ用コードは使用しないでください。

### V-316KSW<sub>e</sub>の場合

結線には2芯VVVFケーブル(Φ1.6)を使用します。  
お客様にて市販品を別途手配してください。

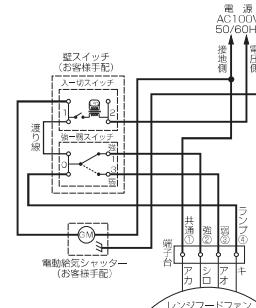
- (1) ねじをはずして端子台カバーと配線固定クリップを取りはずす。
- (2) 結線図に従って端子台に電源電線を接続する。
- (3) 配線固定クリップを電源電線に取付け、ねじで固定する。
- (4) 端子台カバーを元通り取付ける。
- (5) アース端子を使用して必ずD種接地工事を実施する。



#### 結線図

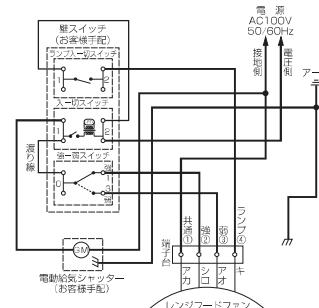
- 太線部分を結線してください。
- 市販の壁スイッチを使用する場合も下記を参照して結線してください。

#### ■壁スイッチP-04SW<sub>e</sub>を使用する場合 (ランプ入/切スイッチなし)



※図中①～④は、導通確認をする配線または端子台の電極番号

#### ■壁スイッチP-60SW<sub>e</sub>を使用する場合 (ランプ入/切スイッチ付)



※図中①～④は、導通確認をする配線または端子台の電極番号

## 据付け後の確認

#### ■据付けが終わりましたら、下表に従ってもう1度点検してください。

#### ■不具合があった場合は必ず直してください。

(機能が発揮されないばかりか、安全性が確保できません)



ランプを点検する際は必ず電源プラグをコンセントから抜くか、分電盤のブレーカーを切る。(感電することがあります)

据付け後の確認	チェック項目	不具合時の対策	チェック
	本体は確実に固定されていますか？	本体を確実に固定します	
	ランプはゆるんでいませんか？	ランプを確実に取付けます	
	電圧は100Vですか？	100Vに直します (異電圧を印加すると製品が破損します)	
	煙逆流防止ダンパー(電動給気シャッター)は確実に接続されていますか？(V-316KR <sub>e</sub> のみ) (電動給気シャッター接続の場合は、確認ランプは点灯しません)	煙逆流防止ダンパー(電動給気シャッター)を確実に接続します	
	D種接地工事はされていますか？	D種接地工事をします	

#### ■壁スイッチタイプの結線確認

下記手順で壁スイッチと端子台の結線を確認してください。

(誤結線されますとスイッチが溶着し故障します)

##### (1) 電源がきていないときの導通の有無(端子台と結線する前に配線にて導通を確認してください)

##### ■壁スイッチP-04SW<sub>e</sub> (ランプ入/切スイッチなし) を使用する場合

##### ■壁スイッチP-60SW<sub>e</sub> (ランプ入/切スイッチ付) を使用する場合

配線の番号	壁スイッチの状態	
	強	弱
共通①-強②	導通ナシ*	導通ナシ
共通①-弱③	導通ナシ	導通ナシ*
強②-弱③	導通ナシ	導通ナシ
強②-ランプ④	導通アリ	導通ナシ
弱③-ランプ④	導通ナシ	導通アリ

\*由田仕様電動給気シャッター等の負荷が接続されていない場合。

負荷が接続されている場合は、抵抗負荷がかかります。

例：F-18QDLR-BLの場合、約1.3kΩ

##### 壁スイッチの状態

##### 強

##### 弱

##### 導通ナシ

##### 導通アリ

##### 導通ナシ